

一行が学生寮の門の前に着いたのは斜陽の眩しい時刻だったが、ロインが姿を現したのは陽が沈んでからだった。

用事とやらを済ませたロインは待ち合わせに遅れたことを詫び、一行を自分の部屋へと案内した。

学生寮一階、六畳ほどのロインの部屋にはシンプルな家具しか置いていなかった。が、特筆すべきは本の多さである。壁一面の本棚には、分厚い本がしきつめられ、入りきらなかった本が所狭しとそこかしこに平積みされていた。「適当に座ってくれ」

椅子に掛けながら、ロインが言う。リアムとノアはベッドに腰かけ、ネックとノランは本をどかして床に胡坐をかいた。五人はそこでノランの買い込んだ夕食を取り、改めてノアについての話を始めた。「あの後、彼女……ノアの衣服の特色について一致する民族がないか調べてみたのだが、結果から言うと空振りだ」

ロインは言った。「彼女の服の特徴である、あの刺繍。あれは民族衣装のシンボルというよりも、個人が作成したオリジナルのデザインである可能性が高い」

ネックは「そうか……」と呟いた。むろんネックもその可能性を考えていなかったわけではないが、あの服から何かわかるのではと希望を抱いていたのは確かだから、残念なものは残念だ。

「待て、悲観するにはまだ早い。服がヒントにならないならばと、俺なりに仮説を立ててみた」

言いながら、ロインは自分の鞆から数冊の本と紙の束を取り出した。「これらは、フィネイル大陸に関する資料だ。君たちも知っての通り、フィネイル大陸のほとんどは大昔に水没している。俺はその水没した大陸の歴史を探るために、生活用品や建物の一部といった漂着物を研究している――」

ロインは紙の束をぱらぱらと捲り、ある一枚の一枚所を指差して、「これは、俺なりにまとめた過去五年の間にフィネイル海流によってフィルスト大陸に運ばれてきた漂着物のリストだ。研究室で話したことと重複するが、これまでに人が生きている状態で流れ着いたという記載はどこにもない」

資料に目を落とし、ネックは「みたいだな」と頷く。「この事実からも、彼女が遠くから海流で運ばれてきたというのは考えづらい。つまり――」

ロインは眼鏡のブリッジを押さえ、「結論として、一番の可能性として残るのは――やはり、船の難破による海難」

「船……」

「そうだ。アリーベ近海には船が多く出ているだろう。身につけていた服の様相から、彼女が漁船や商船に乗っていたということは考えづらい。そこから推察するに、ノアは何らかの事故によって『客船』から海に落ち、海流に乗って海岸へ流れ着いた」

でもよ、と口を開きかけるノランをロインは制して、「わかっている。ノアを見つけた時、お前たちは船の影を見なかったんだろう？」

「おう……」

ロインは『マーデル・プラッタ』周辺の縮尺を記した地図を開き、海上に記されている矢印を指して、「その理由こそ、この部分の海流だ。この海流は非常に速く、アリーベから南へ向かっている。おそらくノアを乗せていた船はこの海流に乗って、お前たちが確認する前に消えたんだ。そうして取り残される形になった彼女だけが、奇跡的に漂着した」

その時、まるで頭の上にロウソクがついたように、リアムが手のひらを頬に当てて、「――関係あるか分からないんだけど」

「な、なんだ」

「ノアが漂着する前の日の夜に、海で水柱が上がってたの」

その言葉に、ネックとノランはハツとして、「そう、そうだ！　ずっと向こうで、ドカーンって大きな爆発みたいなのが……」

「爆発だと？」

ロインは訝しげにノランを見、「その水柱の原因は？」

「いや、わからねえ。俺たちは海底火山の噴火だと思ったんだが……」

「海底火山の噴火……？」

ロインはアリーベ近海の手を取って、「その水柱は、お前たちの家から見てどのくらいの距離で上がり、どのくらいの大きさだった？」

「ええ？　そうだなあ……」

ノランは腕組みをして考え、「なんつーの……超遠いところで、でっけえクジラがとんでもねえ潮吹きをした感じだよ」

ロインは視線を転じ、「ネック。どのくらいだ」

「夜だったからよく見えなかったけど海岸からは百キロ以上は離れてたんじゃないか。それでも海岸からは見上げるくらい高さがあった」

「そこまでの爆発の規模なら海底火山と断言はできないが、否定もできないな。その詳細や爆発がどこまで彼女と関係しているのかも分からないが……」

「ノアの乗っていた船が、運悪く真下から噴火に突き上げられた、とか？　で、ノアはぶっ飛んで海岸へ来た。ノアの服が焼けてるのは、火山のマグマのせいだ」

ノランの真剣な推理を、「それなら絶対に死んでるだろ。マグマを喰らったとしたら焦げる前に溶けてるだろうな」と、ロインがふんわり流す。

ロインは資料の束をトントンとまとめ、椅子から立ち上がって窓を開けた。

涼しい風が部屋に吹き込み、夜の空気が入って来た。

「……悪いが、現段階で俺が言えるのはここまでだ。この段階でノアの明確な身元を解き明かすのは難しい」